

令和4年11月4日

保護者、地域の皆様

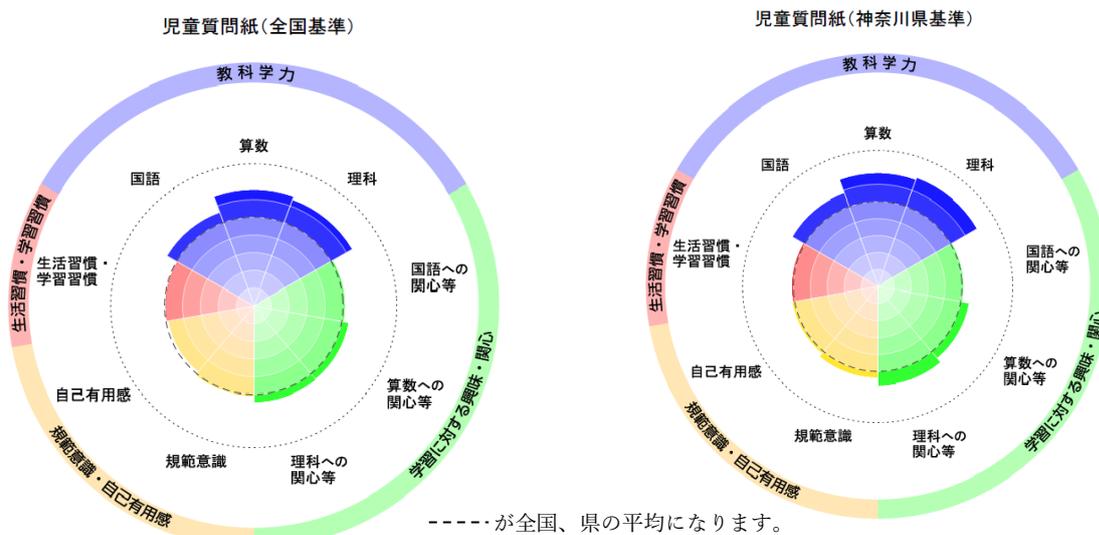
横浜市立小山台小学校
校長 椎名 哲也

全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年5月に6年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取組についてご報告いたします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面です。また、6年生の平均と全国・神奈川県との平均とを比較しての結果を記述しましたので、個々の児童の結果とは異なります。学校といたしましても、この調査結果を客観的資料の一つとして受け止め、個々の児童の結果も分析し、引き続き児童一人ひとりの学力向上に取り組んでまいります。

地域・保護者の皆様には、本調査の趣旨を十分にご理解いただき、結果についてご覧いただけますようお願いいたします。



教科：国語	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
横浜市立小山台小学校	49	9.8 / 14	70
神奈川県 (公立)	69,948	9.1 / 14	65
全国 (公立)	965,308	9.2 / 14	65.6

教科：算数	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
横浜市立小山台小学校	49	12.0 / 16	75
神奈川県 (公立)	69,951	10.2 / 16	64
全国 (公立)	965,431	10.1 / 16	63.2

教科：理科	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
横浜市立小山台小学校	49	12.6 / 17	74
神奈川県 (公立)	69,996	10.8 / 17	63
全国 (公立)	965,761	10.8 / 17	63.3

1 3教科の結果（上記のチャート等をもとにした傾向）

すべての教科とも全国、神奈川県 averages よりも高い傾向にあります。さらに以下の点に留意しながら授業改善に取り組んでまいります。

改善の手立て

国語科

- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえることができている。さらに互いの立場や意図を明確にして計画的に話し合いを行い、自分の考えをまとめる活動を充実させていきます。

算数科

- ・数量を比較し、割合や百分率で表すことはできています。日常の具体場面に対応させながら、伴って変わる二つの数量に比例関係があることを見だし、そこから未知の数量を求める活動を取り入れるなどし、割合についての理解を深めるような学習を工夫していきます。

理科

- ・観察、実験などで得た結果について分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができるようにするために、観察、実験の結果の具体的な数値やそれを分析した内容などを根拠として表現する活動の充実を図っていきます。

2 生活に関する意識について

全体的には、全国・神奈川県と同じような傾向がありますが、本校の児童の意識として、次のような特徴がみられましたのでご報告いたします。

よさととらえられる面

- ・自分のよさをわかっている。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。

この望ましい傾向がさらに生かされるように支援を続けます。

課題としてとらえられる面

- ・将来の夢や目標をもつこと。
- ・学習を日常の中で活用していると感じられること。
- ・やると決めたことを最後までやり遂げたと思える経験をすること。

調査結果を踏まえ、数値化される学力だけでなく、子ども一人一人の意欲や協調性、自制心や継続させる力など、いわゆる非認知能力を高めるための活動も重要であると考えます。これは、教育活動全般で育む力としますので、家庭、地域と協働し子どもたちの健全育成に取り組んでまいります。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。